

東海工業専門学校講演会報告

日 時：令和7年5月12日（月）16時～17時
 会 場：東海工業専門学校金山校
 講 師：昭和支部 加藤孔太郎会員
 参加者：78名（10代-64%、20代-32%、30代-3%、40代-1%）

毎年の恒例行事となってきた、東海工業専門学校金山校での講演会。今年で7回目となります。東海工業専門学校の先生方はもちろん、全授業終了後に参加いただいている生徒の皆様には貴重な時間を頂戴し、深く感謝いたします。講師は、学校側の要望もあることから、卒業生である加藤孔太郎会員が担当してくれました。「職業としての土地家屋調査士を選択した動機」と題して、土地家屋調査士を目指すこと



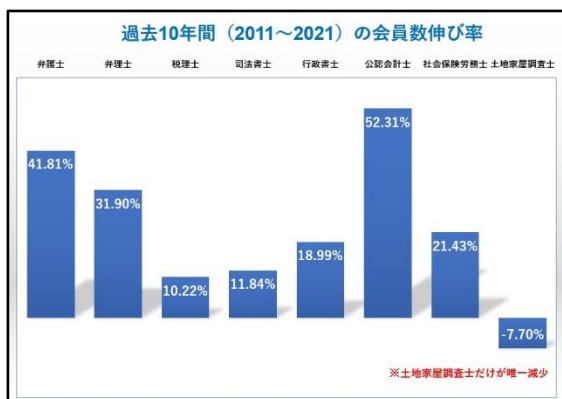
になったきっかけ、業務内容、開業後の苦労話や職業としての将来性について、ご自身の体験を基に分かりやすく講義してくれました。なかでも隣接地所有者との生々しいエピソードは、多くの生徒さんたちの記憶に残ったようです。土地家屋調査士の社会貢献度や収入の高さ、やりがいのある仕事であることが伝わる講演会であったと思います。加藤孔太郎会員ありがとうございました。



アンケート結果では、「土地家屋調査士」の知名度は65%。測量を学んでいる生徒さんたちからの回答としては寂しい結果となりました。

職業選択時に重要視するものとしては、「収入」「休日」「やりがい」でした。この結果は、どの属性にアンケートしても不動のトップ3です。

多くの若者が求めるこの3条件を実現可能な職業として、「土地家屋調査士」があることをもっと多くの方々に認知してもらう必要があります。



隣接士業の中で唯一会員数が減り続けている状況の中で、将来の土地家屋調査士候補として有望な東海工業専門学校の生徒さん。一人でも多くの方に実際に土地家屋調査士になっていただけるように、このような講演会の機会を有意義なものにするとともに、今後も継続させていただきたいと思います。

（前広報部長 片岡忠雄）